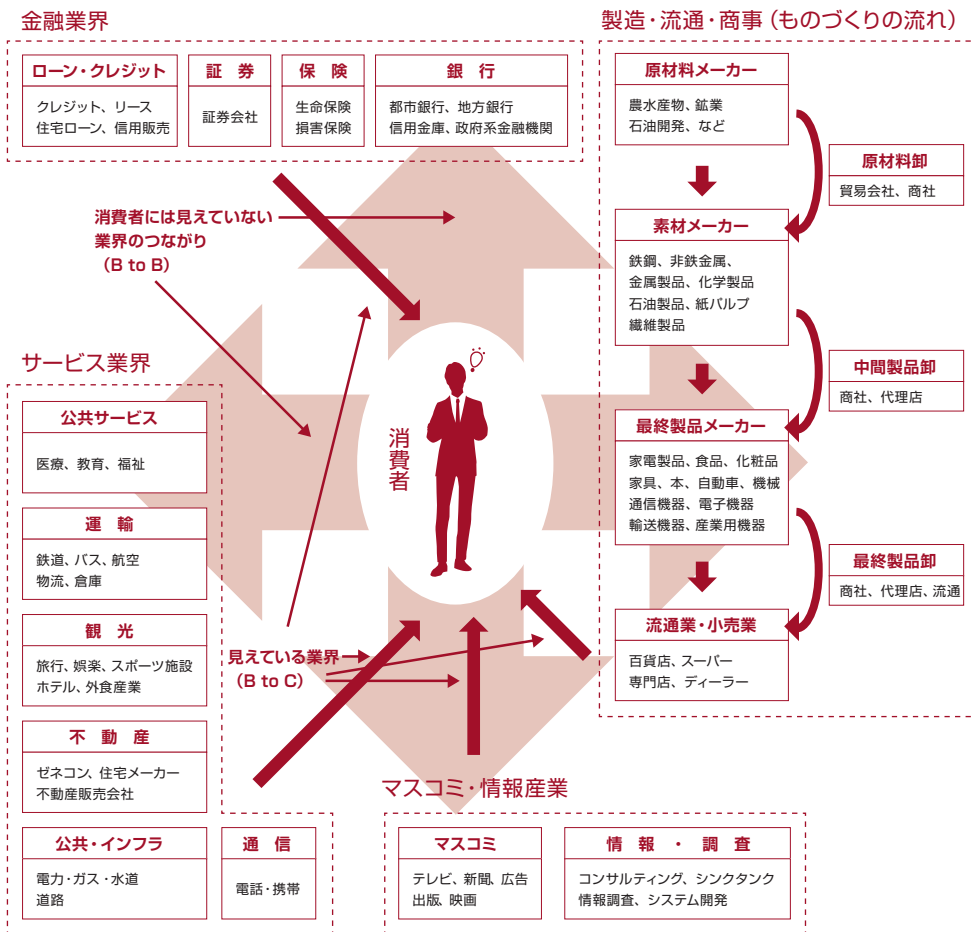


# 業界・企業研究

みなさんは企業の名前をいくつ挙げることができますか？日本には約420万社の企業が存在しますが、その中で、みなさんが知っている企業の数のごくわずかです。そのわずかな企業知識や思い込みだけで志望先を決めるのではなく、まずは視野を広げることからはじめてください。そして順次、業界・企業研究に取り組んでください。

## 1. 幅広い業界・企業研究

私たちが普段、接点を持つ商品やサービスをあつかう企業はB (Business) to C (Consumer) 企業です。しかし、ひとつの商品やサービスが私たちの手元にたどり着くまでには、私たちの目に見えないところで、様々な企業間のビジネス、B (Business) to B (Business) が展開されています。



例えば「質の高い文房具をお客様に提供したい」と考えた時、あなたの夢がかなう可能性のある業界は文具店（小売）だけではなく、製造メーカーや素材メーカー、原料メーカーかもしれません。また、「本が好き」だとしたら、出版社だけではなく、書店（小売）や印刷業界、電子書籍技術を扱うIT業界というジャンルも考えることができます。就職活動の準備段階では、特に根柢のない「イメージ」で視野を狭めることのないよう、幅広い業界・企業研究を進めていってください。

## 2. 深い業界・企業研究

志望する業界・企業がある程度絞れてきたら、今度は「深い」業界・企業研究を心がけてください。

例えば「銀行」について考えてみましょう。銀行は何で収益を上げていますか？どんなビジネスモデルがありますか？あなたが普段目にしたり、利用したりする銀行の窓口だけで、銀行の「仕事」をイメージしていませんか？

まず初めに、「銀行の顧客は誰なのか」を考えてみましょう。銀行の顧客は、「法人」と「個人」に分かれます。そして「法人」の中でも「大企業」「中小企業」に分かれます。また、「個人」でも「富裕層」と「一般層」に分かれます。顧客が変わることによって、それぞれのビジネス上の戦略も変わってきますか？そしてビジネス上の戦略が変われば、仕事の中身も変わってくるでしょう。

ビジネス上の戦略は、「業界」ごとでも「企業」ごとでも異なります。その点を理解できるように、業界・企業研究を深めてください。業界・企業の特徴、現在注力しているビジネス・業務内容を深く理解すればするほど、中身の濃い志望動機をつくることができます。

## 3. 企業の見方

学生のみなさんから、「良い企業ってどんなところがありますか？」、「〇〇は、良い企業ですか？」といった相談が多く寄せられます。キャリア・オフィスでは、「良い企業は、自分に合う企業」であり、「自分に合った企業選びが重要」だと考えています。

自分に合った企業を見つけるためには、自分がどういう考え、基準を持ってこれから社会で頑張ろうか、自己成長しようか、そのためにはどのような仕事選びを行うのかという「自分軸」（就職活動の方針）がまず求められます。

近年は、様々な企業指標が存在しています。業界や企業を研究する際には、上記の「自分軸」を中心に以下のような指標を参考にしてみてください。

### 指標の例

- <sup>ナイセス</sup>NICES（多角的企業評価システム）：  
日本経済新聞社と日経リサーチ、日本経済新聞デジタルメディアが共同開発。「投資家」「消費者・取引先」「従業員」「社会」の4指標について評価し、順位をつけたもの
- 経常利益伸び率（1期前比較+前期比較の伸び率を合計）
- ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス
- なでしこ銘柄
- 女性が働きやすい会社ベスト100
- ファミリー・フレンドリー企業
- グローバルニッチトップ企業100選 など